



波紋

設立して6年めを迎えることができました

—5年間の足跡と絆を大切に、これからも力を合わせます—
皆様のあたたかいご指導ご支援は、わたくしたちの大きな力大きな支えです。
本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

NPO法人 教育活動総合サポートセンター

理事長 井口 衛

今日もサポートセンターの活動は営まれています。「子たちに力を、子たちと夢を」とともに学び、ともに生きていきたい。子どもたちの熱い想いをしっかりと受けとめ活動するスタッフの姿に頭がさかります。

発行所 教育活動総合サポートセンター
〒213-0033 川崎市高津区下作延1219-104
TEL・FAX: 044-877-0553
E-mail: support0731@luck.ocn.ne.jp
ホームページ: http://www16.ocn.ne.jp/~snmi/
印刷 西桜印刷株式会社

特定非営利活動法人
教育活動総合サポートセンターだより
「波紋」 第6号
発行人 井口 衛
題字デザイン・山口正勝

さて、20年度の活動をふりかえりますと、第一に組織の充実をあげることができました。事務局の努力により各業務の内容・分担も整備され役員会、理事会、総会も定例化されました。第二は「不登校の対応におけるNPO等の活動に関する実践研究事業」の報告書に作成・報告会の開催でした。(昨年3月26日・294人の参加者がありました) 報告書は文部科学省委託事業4年間のまとめとして、またNPO設立以来4年間の活動の集大成としてまとめましたものです。報告書をひもとく時、この5年間の「あの時、あの場所」を想いながら「出会いの不思議さがありがたさ」をしみじみと感じております。川崎市教育委員会、同総合教育センター、生涯学習財団、退職校長会、公立学校校長会、教職員、PTA連絡協議会、教育関係諸機関、市民活動センター、各区役所、地域市民の皆様・・・また、この間、東京応化科学技術振興財団をはじめとする諸団体による助成費助団体、賛助会員の皆様による

物心両面にわたるお力と支え、多くのご厚情があることをいつもスタッフ一人ひとりが心したものです。20年度の活動の様子は紙面で報告があります。ご参照ください。年度の計画をもとにより成果のうちに終わることができたと考えています。多くの場の中で活動された皆様の熱意と努力に心より感謝申し上げます。



◎21年度に向けて

今までの活動にあわせて「大山街道ふるさと館」の指定管理、「子どもサポート南野川の受託事業、各区役所との「子ども支援」事業の連携をはじめ活動の場は広がりをもせています。そして、文科省の委託事業の継続(本年度も)ありがたいことです。不登校への対応の場として他にないだろうか協議の中でも話し合われています。未来に目を向けた組織の活性化も当面の大きな課題です。

「深めると広がる」

今、日本は経済面だけでなく大きな変革の時を迎えています。しかし、次世代をになう青少年の健全育成を願う気持ちは国民共通だと考えます。その根元には「教育力」があると思うのです。初心を忘れることなく、少しでも川崎の教育、子どもたち、市民の皆様にお役に立ちたい。日々の営みを大切にともに力を合わせ進みたいと思うこのごろです。

今後とも皆様のお力をどうぞよろしくお願い申し上げます。
(友よ友)

21年度活動方針・事業計画

法人設立の理念に基づき、各事業が効果的、具体的に活動できるように推進する。

1. 活動方針

① 家庭・学校・地域および教育関係機関等との連携をして各学校教育活動の充実発展を支援する。

② 一人一人の児童生徒が目標を持ち、生きる力を身につけるよう支援する。

③ 組織力の充実と諸活動の充実、活動会員の補充・充実と賛助会員の増員を図る。

2. 事業計画

本年度から「こどもサポート南野川」の運営、「大山街道ふるさと館」指定管理が加わった。不登校児童生徒の学校復帰を中心に支援活動に取り組む。

① 学習指導部
(1) 学習指導部
不登校児童生徒の学校復帰を図るため、理事・活動会員の増員を図り、児童生徒のニーズに配慮する。

② 日本語指導

海外からの帰国児童生徒、外国人への支援を図る。

③ 宮ノ下キッズ

夏季休業中に学習の遅れを回復し学習の充実・発展を検討する。

④ サイエンスキッズ

理科離れを食い止める方策を更に推進する。

⑤ キッズ・セミナー

生涯学習財団を会場に「得意な教科はさらに得意に」「疑問、矛盾を解決する自由研究」等個性伸張の学習支援を行う。

① 相談適応

不登校児童生徒、軽度特別支援児童生徒、反社会的行動傾向のある児童生徒の相談活動を推進する。

② ふれあい活動宿泊体験

不登校児童生徒が心を開き軽度特別支援児童生徒が軽快に活動できるよう、子どもに活力をつけたい。

③ 体験活動

鎌倉遠足、修学旅行を再現したり各種体験をさせる。

④ 特別支援

定款に新設された支援事業を充実させていく。特別支援教室の担任経験者、指導主事経験者、行政で対応した経験者の充足を図る。

⑤ 学校との連携

児童生徒がNPOでの学習、生活状況の改善等を学校に連絡し、学校との連携を深める。



- (3) 事業部
 - ① 青少年の家・管理運営事業
前年度に引き続き自主事業の取り入れ等、事業の発展を図る。
 - ② 教育会館・管理相談事業
会館の管理と同時に教職員の多様なニーズに応える相談活動を充実する。
 - ③ 大山街道ふるさと館事業
館の管理運営と同時に文化活動講演活動、展示活動に職員のノウハウを活用する。
 - ④ 「こどもサポーター南野川」管理指導事業
不登校児童生徒、軽度特別支援児童生徒、反社会的行動傾向児童生徒の学習支援を図っていく。
 - ⑤ サポーター派遣事業
前年度同様、学校へ年間を通して主に大学生を派遣する。
 - ⑥ 輝け☆明日の先生の会事業
教員を目指している大学生等を対象に実施。年間15回、ゼミナールを6回予定。
 - ③ 新しい学校づくり☆川崎塾
学校経営混乱を未然に防止し、学校改善を図る教師塾
 - ④ 学校図書館有効活用事業
休日や長期休業中等を活用し学校図書館を児童生徒および市民に開放する。
 - ⑤ 文化講演会
教職員、PTA、市民向けに、文化向上を図る講演会を企画開催する。
 - ⑥ 各区から受託した事業
本年度は川崎区、中原区、高津区、宮前区から、子育てに関する事業を受託している。各区民の期待にそうよう、また、各種の問題や課題の未然解決が図れるよう、それぞれの区と綿密な連携をしながら事業を推進していく。

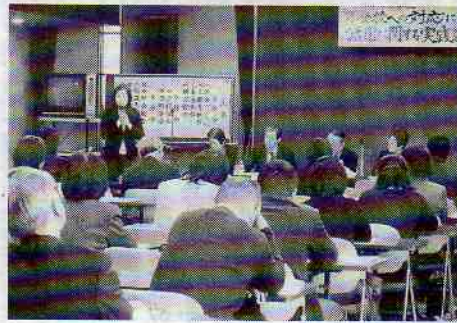
不登校への対応におけるNPO等の活動に関する実践研究事業発表会

17・18・19年度の3年間を当センターでは文部科学省より標記の研究委託を受けスタッフ一同その研究に取り組んできた。その報告発表会は、昨年3月26日(水)に実施したところである。(参加者は154人)



引き続き20年度もその研究が委託され、まともとしての発表が3月26日(木)に教育会館で行なわれた。全体会、分科会全体の順に行なわれ、はじめの全体会では、研究の報告を、その後の分科会(小学校部会・中学校部会)にわかれて研究討議)そしてまた、全体会で各分科会の内容を報告質疑応答の後、日

本女子大教授鶴養美昭先生の指導講評で幕を閉じた。参加者は小学校の現職の先生を含めて294人であった。



小学校部会

M・L、学校復帰にいたった事例がパターン別に報告されました。NPOの相談担当者や学習担当者の献身的な対応と、学校や医療、

サポーター配置事業

本年度のサポーター配置は小・中とも、教育活動支援と特別支援教育に携わる学生等のサポーターを峻別し配置する。年間、1校当りの標準配置回数は、教育支援は30回、特別支援は割り当て回数となる。1回当りの勤務時間は4時間以内。担当理事(小・梁部、川田中・渡邊、佐藤)

関係機関との緊密な連携によって、子どもが力づいていく姿に感動しました。

また、参加者からは次のような貴重なご意見が寄せられました。

- 愛情込めて接すること
 - その子の立場に立つこと
 - 先を見通させること
 - 早期に手を打つこと
 - 一人で抱え込まないこと
 - 不登校は担任を顧みさせる
- 司会者が、理事長の「深まれば広がる」を引用し、「関係者の私たちが手を携え深めよう」と、使命を再確認しました。

中学校部会

学校復帰のパターン別まとめとして、「クラスの中に居場所がなくなくなったE子」「家庭訪問から来所できるようになったN男」等の15事例が報告された。協議内容を要約すると次のようになる。

不登校になった要因は多岐にわたるが、中でも学習の不安が多く、個に応じたカリキュラムを作成し、

川崎市青少年の家指定管理受託

エコチャレンジ
モツゴの放流、環境実験、野菜の栽培、エコクッキングなどを通して身近な生活環境について考え、さらに取り組んでいく力を育成している。ほのぼのスクール
4泊5日青少年の家に宿泊しながら通学。家族の存在認識や家庭を離れての自己発見、寝食をともにした友との交流など貴重な体験をしている。



学習活動を通してその悩みを聞くことが大切である。さらに、学習後のカウンセリングも欠かせない。生徒理解には常に生徒の親身になり、教師自身が変わっていかねればならない。

また、保護者の子どもへのかかわりも悩みが深く、子育ての支援活動も考える必要がある。

新しい学校づくり☆川崎塾

中堅教員を対象としたこの事業も3年目を迎えました。今回は年齢層も幅広く、30歳台と50歳台の方々が受講されました。学校の抱える諸問題について、講話や協議会を通して考えを深め合うことができました。年8回、講師には、前校長、現職教員、行政職の方々がお願いしました。本年もよろしくお願います。

「輝け明日の先生の会」開設

総合教育センターの委託で始められたこの会も、3年目を迎えました。川崎市の教員を志している臨任・非常勤・学生等の若者が120人ほど受講し活気ある講話やゼミが毎回進められました。4月からこの会出身者が教壇に立ちました。子どもたちに信頼され笑顔で活躍することを願っています。

